

## 信越支部

## ●講演会

日時 平成26年11月21日(金) 16:25~17:55  
 会場 新潟大学工学部103講義室(新潟市)  
 題目 検査機器における最適化技術の活用  
 講師 加藤浩介(広島工大)  
 問合せ先 新潟大学工学部福祉人間工学科 前田義信  
 TEL [025] 262-6754 <http://www.ieice.org/shinetsu/>  
 その他 聴講は無料、本会会員以外の方の聴講も歓迎  
 主催 電子情報通信学会信越支部

## 関西支部

## ●IEICE 関西支部 ICT 基礎講座「アルゴリズムから学ぶ暗号技術」

近年の情報通信関連開発では、必要とされる技術の多様化と開発期間の短縮により、若手技術者がOJTを通して基礎知識や基礎技術を習得することが難しくなっていると指摘されています。また、これまで予想されなかった分野で情報通信技術が適用されることも増えており、大学・大学院教育で身に付けた技術分野を越えた多彩な技術を修得する必要性が高まっています。

このような状況を鑑み、電子情報通信学会関西支部では、情報通信に関する様々な技術を集中講義形式で学習できる講座「IEICE 関西支部 ICT (Information and Communication Technology) 基礎講座」を開講しています。本講座は基礎的な知識や技術に重点を置きながら、基礎から展開して最先端技術へ至るまで講義・実習することを目的としています。各講座の受講者数を15名程度の少人数に絞ることで講師との双方向コミュニケーションを可能とし、短期間で先端技術の基礎を習得することを狙っております。今年度の第3回の講座として「アルゴリズムから学ぶ暗号技術」を下記のとおり開講致します。幸いなことに、これまで開催された講座は、受講生から大変高い評価を頂いております。皆様の積極的な受講をお待ちしております。

日時 平成26年12月5日(金) 9:40~16:50  
 会場 中央電気倶楽部214号室(大阪市北区堂島浜2-1-25, ドージマ地下センター南詰を右側に上がり, 右へ約50m, 左側のレンガ造り建物)  
 内容 インターネットで安全な通信を提供するプロトコルとしてTLS(旧称:SSL)があります。本講義ではこのプロトコルで使用される主な暗号技術のアルゴリズムについて解説します。特に公開鍵暗号の動作原理を理解することを主なテーマとし、実装時に必要となる数論アルゴリズムについても詳細に解説します。また、フリーの計算機代数ソフトウェアPARI/GPによる実習も行います。シラバスは下記URLから御覧頂けます。  
<http://www.ieice.org/kansai/ict/>

講師 村上恭通(阪電通大)

受講料 会員:8,000円, 学生:2,000円, 非会員:20,000円(会員, 非会員共に消費税込み)

募集人数 5名以上, 最大15名程度(開講2週間前までに申込み人数が5名に達しない場合, 開講しないこともあります)

申込方法 関西電気関連学会事務センターに電子メールで申込み下さい。

問合せ先 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-25 中央電気倶楽部内

関西電気関連学会事務センター

TEL [06] 6341-2529, FAX [06] 6341-2534

denki4g@ares.eonet.ne.jp <http://www.ieice.org/kansai/ict/>

主催 電子情報通信学会関西支部

## ●電気三学会関西支部専門講習会「省エネルギー社会実現に向けたSiCパワー半導体の研究開発・適用の動向」

近年、温室効果ガスの排出削減や原子力発電所の停止に伴う電力不足を背景に、電気エネルギーの変換過程における一層の高効率化が求められています。電気エネルギーの変換においては、多数のパワー半導体デバイスが用いられていますが、現在用いられているSiパワーデバイスは、その物性に起因する性能限界に近づきつつあります。そこで、新しいパワーデバイスとしてSiC(炭化珪素)に関する研究開発が精力的に進められ、実際の製品に関する適用事例も増えつつあります。

本講習会では、まず優れた特性を有する SiC パワー半導体の基礎的内容について御講演頂き、その後、小形かつ高耐熱なパワーモジュールの開発動向、ダイオード機能を組み込んだ SiC-MOSFET の研究開発、更に高い絶縁破壊電圧を生かした高耐圧 SiC-MOSFET の研究開発など、最新の研究開発動向について御講演頂きます。更に、社会への実装として、鉄道分野や家電製品等に対する適用事例について御紹介頂きます。奮って御参加下さい。

日 時 平成 26 年 12 月 8 日 (月) 13:30~17:15

会 場 中央電気倶楽部 513 号室 (交通等前掲参照)

講演題目と講師

- |                                   |               |
|-----------------------------------|---------------|
| (1) 開講の挨拶                         | 電気学会関西支部      |
| (2) SiC パワー半導体の基礎                 | 舟木 剛 (阪大)     |
| (3) SiC パワーデバイス・モジュールの研究開発動向      | 中村 孝 (ローム)    |
| (4) ダイオード機能内蔵型 SiC-DioMOS の研究開発動向 | 北畠 真 (パナソニック) |
| (5) 高耐圧 SiC-MOSFET の研究開発動向        | 和田圭司 (住友電工)   |
| (6) SiC パワー半導体の鉄道・家電製品への適用動向      | 中田修平 (三菱電機)   |
| (7) 閉講の挨拶                         | 電気学会関西支部      |

聴講料 主催学会会員 8,000 円, 准員・学生員 無料 (会員 不課税)

会員外一般 10,300 円, 学生 2,100 円 (会員外 消費税込)

定 員 80 名 (定員になり次第, 締め切らせて頂きます)

申込方法 電気学会関西支部 HP (<http://www.iee.jp/kansai/>) からお申込み下さい。はがき, FAX, E-mail によるお申込みの場合, 講習会題目, 開催日, 会員種別, 氏名, 連絡先 (会社あるいは学校名, 所属, 郵便番号, 所在地, 電話番号) を, 下記の申込先まで御連絡下さい。後日, 参加証と請求書をお送り致します。なお, お知らせ頂きました個人情報は, 行事の運営に必要な場合のみ使用致します。

申込先 〒530-0004 大阪市北区堂島浜 2-1-25 中央電気倶楽部内 関西電気関連学会事務センター

TEL [06] 6341-2529, FAX [06] 6341-2534

denki4g@ares.eonet.ne.jp <http://www.ieice.org/kansai/>

主 催 電子情報通信学会・電気学会・映像情報メディア学会各関西支部

### ●電子情報通信学会関西支部 学生「見学会・講演会」

下記のとおり, 学生見学会・講演会を開催しますので, 多数御参加下さい。

日 時 平成 26 年 12 月 11 日 (木) 13:30~17:05

対 象 大学院, 学部, 高専の学生 (学年不問) ※非会員学生も参加可能です。

見学会テーマ 「社会を支える基盤技術を見てみよう」

見学先 オムロン株式会社草津事業所 (草津市西草津 2-2-1)

行 程

13:30 オムロン及び草津事業所の概要説明

13:45 社会システム 生産ライン見学

14:30 FA システム 生産ライン見学

15:25 つなぎラボ見学

16:05 PLC についての講演

17:05 現地で解散

集合場所 JR 草津駅 2 階改札前 (<https://www.jr-odekake.net/eki/top.php?id=0610110>)

集合時間 13:00 (集合後移動しますので時間厳守, 晴雨不問)

見学人数 定員 30 名 (申込先着順, 定員になり次第締切)

参加費 無料

申込方法 電子メールにて, 件名を「学生見学会講演会申込」とし, 下記の必要事項を記載の上, お申込み下さい。  
(平成 26 年 11 月 13 日 (木) 締切)

(a)氏名 (b)学校名 (c)専攻または学科名 (d)学年 (e)電話番号

申込先 学生会幹事長 野口翔大 (神戸大学大学院工学研究科)

135t253t@stu.kobe-u.ac.jp <http://www.ieice.org/kansai/>

主 催 電子情報通信学会関西支部学生会

●電気学会・電子情報通信学会・情報処理学会 主催

日本技術者教育認定機構（JABEE）審査講習会・受審校向け講習会

日時 平成26年11月29日（土） 審査講習 10:00～16:55, 受審校向け講習 17:00～18:30

10:00～16:55の審査講習を受講頂くと、JABEE審査のオブザーバ資格が得られます。

場所 電気学会 会議室（千代田区五番町6-2, HOMAT HORIZON ビル 8F）

募集人員 50名（先着順）

交通手段 <http://www.iee.jp/wp-content/uploads/honbu/31-doc-honb/map.pdf> を御参照下さい。

講習費用 会員：10,000円，非会員：15,000円

（いずれも、消費税含む、審査講習のみ、受審校向け講習のみ受講の場合も同額）

（〔会員〕には「電気学会事業維持員会員，電気，電子情報通信，照明，映像情報メディア，情報処理の5学会または技術士会いずれかの個人会員」を含む。）

申込方法 電気学会技術者教育課に電子メールにて11月14日（金）までに以下の各項を御連絡下さい。

- ・所属機関名，部署名，役職
- ・氏名（ふりがな）
- ・所属学協会名（注．入会している学協会名は全て記載下さい）
- ・電子メールアドレス，電話番号
- ・審査員養成講習会への参加経験（参加した年）
- ・質問事項があれば記載のこと

申込電子メール宛先 [jabee-office@iee.or.jp](mailto:jabee-office@iee.or.jp)

電子メールの題目に「2014年度JABEE審査講習会申込」と記載下さい。

支払方法 当日現金にてお支払い下さい。

問合せ先 一般社団法人電気学会技術者教育課（担当：荒井・佐藤）

TEL〔03〕3221-3710, FAX〔03〕3221-3704

E-mail：jabee-office@iee.or.jp

講習内容

09:30～10:00	登録・資料確認	
10:00～10:10	本講習会の位置付けと講習会後の資格	講師：佐藤之彦
10:10～10:45	認定制度の考え方と基本方針	講師：佐藤之彦
10:45～11:30	認定基準の解説	講師：古関隆章
11:30～12:15	認定・審査の手順と方法	講師：長尾雅行
12:15～13:00	昼食・休憩	
13:00～13:45	自己点検書	講師：佐渡一広
13:45～14:30	プログラム点検書・審査報告書	講師：埴 雅典
14:30～15:15	審査の手引き（前半）	講師：甲斐宗徳
15:15～15:25	休憩	
15:25～15:55	審査の手引き（後半）	講師：小西博雄
15:55～16:10	審査チームの構成と倫理規定	講師：小西博雄
16:10～16:55	認定・審査に関する質疑応答	司会：相知政司
16:55～17:00	休憩	
17:00～17:45	受審に関する留意点	講師：藤田英明
17:45～18:30	受審に関する質疑応答	司会：吉田明正
18:30	解散	

注）都合によりスケジュールが変更となる場合がありますので御了承下さい。

●第4回エレクトロニクスシミュレーション講習会「高速多重極法による電磁界解析入門」

委員長 柏 達也（北見工大）

エレクトロニクスシミュレーション研究専門委員会では、以下の講義内容で講習会を開催致します。奮って御参加下さい。

日時 平成26年11月28日（金） 13:00～17:00

会場 日本大学理工学部駿河台校舎5号館524室（千代田区神田駿河台1-8-14）

交通アクセス：<http://www.cst.nihon-u.ac.jp/campus/access.html>

キャンパスマップ：<http://www.cst.nihon-u.ac.jp/campus/>

講師 大貫進一郎 (日大)

タイトル 高速多重極法による電磁界解析入門

内容:

1. 高速多重極法の基礎

1.1 開発の背景, 1.2 積分方程式, 1.3 加法定理と多重極展開, 1.4 高速多重極法, 1.5 多重レベルへの拡張

2. 計算の信頼性

2.1 誤差要因, 2.2 計算誤差の予測と制御, 2.3 解析モデリング, 2.4 検証例

3. 解析事例の紹介

3.1 大規模電磁界解析, 3.2 ナノ電磁界解析, 3.3 数値逆ラプラス変換法を併用した時間応答解析, 3.4 プラズマモニック素子の設計

受講料 一般非会員 20,000 円, 一般会員 15,000 円, 学生非会員 10,000 円, 学生会員 5,000 円

申込方法 研究会 HP: <http://www.ieice.org/es/est/> を御覧の上, お申込み下さい. 定員 (20 名) に達し次第, 申込みを締め切らせて頂きます.

申込締切 平成 26 年 11 月 14 日 (金)

問合せ先 鈴木敬久 (首都大学東京) TEL [042] 677-1111 内線 4338, [y\\_suzuki@tmu.ac.jp](mailto:y_suzuki@tmu.ac.jp)

主催 電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティエレクトロニクスシミュレーション研究専門委員会 (EST)

●セミナー「最新高画質映像技術の基礎から応用まで」

委員長 山田光穂 (東海大)

イメージ・メディア・クオリティ (IMQ) 研究専門委員会は, このたび「最新高画質映像技術の基礎から応用まで」と題したセミナー (講演会) を開催することとなりました. 本セミナーは, 4K 放送が始まり, 高画質映像技術が再び注目されている状況を踏まえ, 研究者のみならず一般技術者や学生までにも, 最新の高画質映像技術についての理解を深めて頂くことを目的とします.

セミナーの内容としましては, 真の高解像度化, 高ダイナミックレンジ化, 高画質符号化 (情報圧縮), 広色域化を目的として, それを実現するための基礎理論から応用装置までを, 「基礎」, 「視覚」, 「規格」, 「撮像」, 「伝送」, 「表示」の 6 分野について, それぞれの第一人者に解説して頂きます. また, 関連する機器を扱う企業による機器展示見学会も開催予定です.

日時 平成 26 年 11 月 28 日 (金) 9:30~18:00

会場 東海大学高輪キャンパス (白金高輪) 2 号館 2B101 大講義室

スケジュール (仮演題と講師)

- |                                   |                      |
|-----------------------------------|----------------------|
| (1) 本セミナーの企画意図と概要について             | 杉山賢二 (成蹊大, IMQ 副委員長) |
| (2) [基礎] 映像情報の成り立ちと画質の基礎          | 土田 勝 (NTT, IMQ 委員)   |
| (3) [視覚] 映像の臨場感と人間の視覚特性           | 江本正喜 (NHK)           |
| (4) [規格] UHDTV 映像規格とその広色域特性       | 正岡顕一郎 (NHK)          |
| (5) [撮像] 撮像の各種課題に対する取り組み          | 吾妻健夫 (パナソニック)        |
| (6) [伝送] 次世代符号化方式 HEVC とその高画質化技術  | 坂手寛治 (三菱電機)          |
| (7) フルスバック高画質化に向けた 8K ディスプレイ技術    | 熊倉 威 (シャープ)          |
| [表示 3 件] レーザーによる広色域表示とカラーマネジメント技術 | 南 浩次 (三菱電機)          |
| BT. 2020 広色域対応の表示に関する高画質映像技術      | 江藤博昭 (ソニー)           |

・映像機器展示

概要説明 (11:50~12:00) 2B101 大講義室

展示 (12:00~14:00) 2201 教室 (大講義室の上階)

受講料 一般: 5,000 円

シニア: 2,000 円 (55 歳以上で常勤職に就いていない方, 年齢のみ確認)

学生: 無料 (学生証で確認, 予稿集が必要な場合は 1,000 円で購入)

問合せ先 杉山賢二 (成蹊大学, 本セミナー企画担当)

TEL [0422] 37-3966, FAX [0422] 37-3871

[sugiyama@st.seikei.ac.jp](mailto:sugiyama@st.seikei.ac.jp)

※本セミナーは直接参加も可能ですが, 予稿集や弁当販売の都合上, 極力事前登録をお願いします. 事前登録方法や最新の情報については, IMQ 研究会 HP: <http://imqa.jp/> を御覧下さい.

主催 電子情報通信学会基礎・境界ソサイエティイメージ・メディア・クオリティ研究専門委員会

## ●HCG シンポジウム 2014—ヒト・モノ・トコロを紡ぐ豊かな情報を発信する ICT—

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) では、HCG シンポジウム 2014 を下関にて開催致します。本シンポジウムでは、口頭発表に加えて深くまた広く議論するためのデモやポスターによるインタラクティブ発表もごさいます。多くの方に御発表、御議論頂くことで、「人を中心に据えた」情報通信技術の新たな研究のシーズを生み出す場、これからの時代の流れを新たに作り出すパワーを生み出す場となることが本シンポジウムの目標です。皆様、奮って御参加下さい。

また、本シンポジウムでは気象予報士の森朗氏による招待講演を予定しております。大変興味深いお話をお聞かせ頂けると思いますので、御期待下さい。

更に、本シンポジウムでは「コミック工学」、「ヒューマンセンタードデザインの理論と実践」、「雰囲気工学」、「G 空間コンピューティング：センシングからコミュニケーションまで」の四つのオーガナイズドセッションを企画しており、約 40 件の発表が行われます。

HCG は、フィールドやアプローチを異にする多彩なコミュニティとの連携により新しいことを生み出す場となることを目標としております。幅広い分野から多数の皆様の参加をお待ちしております。

HCG 運営委員長 中村裕一

実行委員長 井原雅行

副実行委員長 今井順一、川原靖弘、竹内勇剛

日 時 平成 26 年 12 月 17 日 (水) 10:00~18:40 (受付:9:15~)

12 月 18 日 (木) 9:10~18:45 (懇親会:19:30~21:30)

12 月 19 日 (金) 9:10~13:00

会 場 海峡メッセ下関 (下関市豊前田町 3-3-1)

■Web サイト <http://2014.hcg-symposium.org/>

■参加費 (CD-ROM 論文集代込み) (※事前申込締切:11/30 (日))

一般:[事前申込] 6,000 円, [当日] 7,000 円

学生:[事前申込] 3,000 円, [当日] 4,000 円

■懇親会 12 月 18 日 (木) 19:30~

懇親会費 (※事前申込締切:11/30 (日))

一般:[事前申込] 4,000 円, [当日] 5,000 円

学生:[事前申込] 1,000 円, [当日] 5,000 円

■情報保障の御案内

情報保障につきましては準備の都合がございますので事前にお申込み下さい。PC 要約筆記及び手話通訳については 11 月 17 日 (月) までに聴講を希望される発表を具体的にお知らせ下さい。インタラクティブ発表、招待講演、懇親会などの全体行事につきましても、可能な限り対応させていただきますので、参加の御予定を事前にお知らせ下さい。特に点字資料 (全体プログラム) を御希望の方はお早めにお知らせ下さい。なお、論文集は PDF (電子データ) で配付します。その他、車椅子での御参加など、お手伝いが必要な方は、事前に御連絡下さい。

情報保障に関するお問合せ: [contact@hcg-symposium.org](mailto:contact@hcg-symposium.org)

情報保障担当: 若月大輔 (筑波技術大)

■招待講演案内

12 月 17 日 (水) 15:00~16:00

「防災情報は役に立つのか?」森 朗氏 (ウェザーマップ; 気象予報士)

■プログラム (最新の情報は Web サイト <http://2014.hcg-symposium.org/> を御確認下さい)

●12 月 17 日 (水)

オープニング (10:00~10:05)

A-1 G 空間コンピューティング:センシングからコミュニケーションまで 1 (10:15~11:55)

(A-1-0) 概要説明 ○オーガナイザ

(A-1-1) 可視光通信と照度センサを用いた屋内音声案内装置 ○牧野秀夫・中澤陽平・西森健太郎 (新潟大)・  
若月大輔・小林 真 (筑波技術大)・小出富夫 (クリエートシステム開発)

(A-1-2) 複数の測位技術を統合する位置情報プラットフォーム

○永見健一・遠藤貴裕・吉田美寸夫・吉澤菜津子 (インテック)

(A-1-3) HASC-IPSC:人間行動センシングデータの収集プロジェクトと屋内行動コーパス

○河口信夫・廣井 慧・梶 克彦 (名大)

(A-1-4) 歩行者自律航法 (PDR) ベンチマークの一手法とその評価 ○興梠正克・蔵田武志 (産総研)

## B-1 顔 (10:15~11:55)

(B-1-1) 単純な線画による顔表情が人の利他的行動に与える影響 ○竹内 力・寺田和憲・伊藤 昭 (岐阜大)

(B-1-2) 多数の化粧顔画像からの化粧トレンド分析手法の検討

○山本安里彩・久保友香 (東大)・稲垣涼子・新本祐一 (フリー)・相澤清晴 (東大)

(B-1-3) 表情に関連する視覚情報処理経路と視覚的注意の関係

○野末 馨・川崎真弘 (筑波大)

(B-1-4) 表情識別インタフェースと表情表出の拡張への応用

○高野裕士 (筑波大)・鈴木健嗣 (筑波大学/JST)

(B-1-5) 顔表情を部分的に挿入した手話 CG 翻訳システム

○加藤直人・宮崎太郎・井上誠喜・東真希子・梅田修一・比留間伸行・(NHK)・長嶋祐二 (工学院大)

## C-1 ヒューマンコミュニケーション (10:15~11:35)

(C-1-1) 呼吸動作に基づく次話者と発話開始タイミングの予測

○石井 亮・大塚和弘・熊野史朗・大和淳司 (NTT)

(C-1-2) 馬名の文字数は馬券購入行動に影響を与える

○本田秀仁 (東大)・和嶋雄一郎 (阪大)・松香敏彦 (千葉大)・植田一博 (東大)

(C-1-3) 映像対話型行動支援におけるインタラクションの一貫性に関する考察

○小泉敬寛・小幡佳奈子 (京大)・渡辺靖彦 (龍谷大)・近藤一晃・中村裕一 (京大)

(C-1-4) 料理名が同じレシピ間の手順構造マッピングによる動作名オントロジーの導出

○山肩洋子 (京大)・今堀慎治 (名大)・前田浩邦 (サイボウズ)・森 信介 (京大)

## A-2 G 空間コンピューティング：センシングからコミュニケーションまで 2 (13:10~14:50)

(A-2-1) HMD 搭載慣性センサの利用を想定した屋内位置推定とその評価

○鈴木洋平・屋良朝克・五百蔵重典・田中 博 (神奈川工科大)

(A-2-2) BLE センサを活用した人々の行動解析

○薄井智貴・佐藤仁美・森川高行 (名大)

(A-2-3) 時空間センサデータ管理サーバを介したセンシング情報可視化共有システムの提案

○田島誠也・中下 岬・篠原雅貴・重田航平・岩井将行 (東京電機大)

(A-2-4) モバイル臭気センシングのためのデータ収集手法

岩井将行 (東京電機大)

(A-2-5) 気仙沼横丁の「今」を疑似体験できる 3D アプリの提案

○山下 諒・上間大生 (関西大)・一刈良介・蔵田武志 (産総研)

## B-2 学びと場 (13:10~14:50)

(B-2-1) ミュージアムにおける展示物への自発的注目を促すための鑑賞補助ツール

○亀ヶ森理史・川嶋稔夫・木村健一 (公立はこだて未来大)・中小路久美代 (京大/SRA)・山本恭裕 (東大)

(B-2-2) 漢字の読みに困難がある児童に対するゲーム形式の漢字読字訓練手法の検討

○横田光弘・上羽一葵・伊藤史人・縄手雅彦 (島根大)

(B-2-3) マルチプレイ型人工学級ゲームを用いたスクールカースト現象に関する研究

○山本幸樹・前田義信 (新潟大)・伊藤 尚 (富山高専)・加藤浩介 (広島工大)

(B-2-4) 高齢者によるスマート端末の利活用

豊田陽介 (KDDI 研)

(B-2-5) 学びのイノベーションへの挑戦

小粥幹夫 (日経大)

## C-2 ヒューマンセンシング (13:10~14:50)

(C-2-1) ファーストネーム呼び掛けによる唾液中オキシトシン濃度への影響

○多田明弘・二川朝世 (ポーラ化成)

(C-2-2) ピクトグラムに関する脳波リズム

○工藤真生・川崎真弘 (筑波大)

(C-2-3) 語産生における深部脳機能ネットワークの phasic/tonic 活動

○今井絵美子 (神戸大/神戸総合医療専)・片桐祥雅・川又敏男 (神戸大)

(C-2-4) 環境との相互作用としての生理的振戦と触知覚の関係

○櫻沢 繁・能戸嵐士・伊藤精英 (公立はこだて未来大)

(C-2-5) 結合非線形振動子系と生体系の相互作用

○吉田彩乃・櫻沢 繁 (公立はこだて未来大)

## 招待講演 (15:00~16:00)

「防災情報は役に立つのか？」

森 朗氏 (ウェザーマップ; 気象予報士)

## HC 賞授賞式 (16:00~16:30)

## ト1 インタラクティブ発表概要 1 (16:30~17:10)

セッション A-1~6, B-1~2, C-1~2 の各発表

- (I-1-1) Kinect を用いた距離画像による指文字認識システム  
○中嶋文香・永田俊介・稲葉善典・赤松 茂 (法政大)
- (I-1-2) 顔画像に対する異なる印象判断時の視線分析と比較  
○丸山阿弓・齋藤優美子・飯田峻広・稲葉善典・赤松 茂 (法政大)
- (I-1-3) 画像情報と距離情報を用いた腕さし方向推定によるジェスチャインタフェースシステム  
○村松将尚・稲葉善典・赤松 茂 (法政大)
- (I-1-4) 顔面の疎な特徴点の動的な3次元変位情報を用いた表情の識別  
○岩佐香織・永田俊介・稲葉善典・赤松 茂 (法政大)
- (I-1-5) 顔の印象判断における化粧の影響  
○齋藤優美子・飯田峻広・丸山阿弓・稲葉善典・赤松 茂 (法政大)
- (I-1-6) 副作用症状の記載方法が消費者の医薬品購買意思に及ぼす効果  
○星野智子・木村 敦・武川直樹 (東京電機大)
- (I-1-7) 共食後の会話のコミュニケーション価値  
○佐藤奈緒子・木村 敦・武川直樹・徳永弘子 (東京電機大)
- (I-1-8) 遠隔会話でのリアルタイム話速変換が高齢者ユーザの行動に与える影響の分析  
○橋本恵理子・斎藤博人・武川直樹 (東京電機大)
- (I-1-9) 避難移動速度にもとづく迷い地点抽出支援ツールの提案  
○高橋翔太・渡辺恵太・中道 上 (福山大)
- (I-1-10) 非接触操作におけるフィードバックごとの反応位置の比較  
○大森和洋・渡辺恵太・中道 上 (福山大)
- (I-1-11) 崎みかん再生プロジェクトの支援  
○青木孝文・藤田滉平・呼野聖弘・菊地勇輝・大塚真吾 (神奈川工科大)
- (I-1-12) 赤外線センサデータからの行動抽出  
○小島光平・有原大貴・石井裕貴・蒔田圭佑・大塚真吾 (神奈川工科大)
- (I-1-13) 物品配送における温度管理システム  
○五味拓真・大塚真吾 (神奈川工科大)
- (I-1-14) 正常圧水頭症検知のための加速度計による歩行安定性評価  
○川原靖弘 (放送大)・片桐祥雅 (神戸大)・田中和哉 (放送大)
- (I-1-15) 作業中における触覚による温冷感提示の情動反応への影響  
○飯塚重善 (神奈川大)・早阪奈央美・細野哲郎・小谷賢太郎 (関西大)

## インタラクティブセッション1 (17:10~18:40)

12月18日(木)

### A-3 雰囲気工学1 (9:10~10:50)

- (A-3-0) 概要説明  
○オーガナイザ
- (A-3-1) 衣服上への安定した映像投影を可能にするプロジェクションシステム  
○杉尾天瞭・岩井将行 (東京電機大)
- (A-3-2) 歩行中のスマートフォン利用における衝突回避デバイスの開発  
○倉谷典明・小林一樹 (信州大)・小松孝徳 (明大)・山田誠二 (NII)
- (A-3-3) アバターロボットによってその場にいる雰囲気を伝達する映画鑑賞システム  
○米澤 謙・上田博唯 (京産大)
- (A-3-4) グループの雰囲気を改善する人口無能的アバター育成システム  
○篠原雅貴・田島誠也・杉尾天瞭・高橋和輝・岩井将行 (東京電機大)

### B-3 ヒューマンセンタードデザインの理論と実践 (9:10~10:50)

- (B-3-1) 仮想研究所におけるサービス提案に向けたユーザとの協調作業  
○新井田統 (KDDI 研)・田才浩之・塚本陽一 (KDDI)
- (B-3-2) 注視行動レベル分解にもとづく要求抽出プロセスの提案  
○前田雅樹・中道 上・渡辺恵太 (福山大)
- (B-3-3) ユーザ中心の情報セキュリティ教育を考える  
○新川涼子 (沖縄女子短大)・原田悦子 (筑波大)・丸山幸伸 (日立)・田中伸之輔 (筑波大)
- (B-3-4) ユーザ中心のサービス開発をするための実践的インタビュー手法  
○和合加愛・濱口菜々・大野健彦 (NTT)
- (B-3-5) チームにおけるサービス創造の効果  
○大野健彦 (NTT)・中谷桃子 (NTT アイティ)・安岡美佳 (IT Univ. of Copenhagen)

### C-3 旅 (9:10~10:50)

- (C-3-1) 外国人の街歩きを聴くネットラジオ「ひとりラジオ」の提案  
○伊藤綾香・小川克彦 (慶大)
- (C-3-2) 企業間取引の地図ビジュアライゼーションによる地域を越えた企業のつながりの把握促進

- 有本昂平・渡邊英徳（首都大学東京）
- (C-3-3) 夜間における景観の複合現実感型提示 清水 諒・北原 格・○亀田能成・大田友一（筑波大）
- (C-3-4) マーケティング活動に資するコンテンツカテゴリ別の情報の流し方の研究 ○鈴木淳一（ISI-DENTSU）・川原靖弘・吉田 寛（放送大）・矢追龍之介・築山芽衣・渡邊信彦（電通国際情報サービス）
- (C-3-5) スマートツーリズム：概念と構造 ○鎌田一雄（HumanCommunication）・米村俊一（芝浦工大）
- A-4 雰囲気工学 2（11：00～12：20）**
- (A-4-1) 他者に影響を与えないBGMからの情報取得の研究 ○本多博彦・崎原 諒・飛田和子・常盤拓司（湘南工科大）
- (A-4-2) 感情表出要素における効果音を用いた能動調整 ACTune ○阿久津敬修・山崎洋一・三上雅樹（神奈川工科大）
- (A-4-3) 韻律情報の記述に基づく装着型発話支援システムの開発 ○梶原裕太郎・鈴木健嗣（筑波大）
- (A-4-4) ロボットの目の発光による感情表出が人の発話内容理解へ及ぼす影響 ○勅使宏武・寺田和憲・伊藤 昭（岐阜大）
- B-4 コミック工学 1（11：00～12：20）**
- (B-4-1) 漫画のスクリーントーン除去に関する基礎検討 ○伊東浩太・相澤清晴・山崎俊彦・松井勇佑（東大）
- (B-4-2) コミックにおけるセリフ内容と吹き出し形状の関係性についての基礎検討 ○田中秀樹・山西良典・福本淳一（立命館大）
- (B-4-3) マンガの画像構造に基づく自動シーン分割処理に関する一検討 ○石井大祐・柳澤秀彰（早大）・三原鉄也（筑波大）・渡辺 裕（早大）
- (B-4-4) 漫符を利用した登場キャラクターへの感情付与に関する基礎検討 ○赤井友紀・山下 諒・上間大生・松下光範（関西大）
- C-4 感性（11：00～12：00）**
- (C-4-1) 話速変換音声のピッチ制御が話者の感情印象に及ぼす影響 ○小野貴大・斎藤博人・武川直樹（東京電機大）
- (C-4-2) オフィス知的照明制御のための心拍特徴量に基づく適切感評価 ○韓 剛熙・杉本千佳（横浜国大）
- (C-4-3) 映像コンテンツの種類とディスプレイ解像度の違いが生理心理評価に及ぼす影響 ○阪本清美・坂下誠司（パナソニック）・山下久仁子・岡田 明（阪市大）
- A-5 雰囲気工学 3（13：35～14：55）**
- (A-5-1) 面接における面接者及び被面接者の動作と評価の関係 ○渡邊栄治（甲南大）・尾関孝史（福山大）・小濱 剛（近畿大）
- (A-5-2) 「なにか話して…」：多人数会話の流れを媒介する発話介在ロボットのデザインの検討 ○大島直樹・渡邊竜弥・齋藤夏生・徳永弘子・武川直樹（東京電機大）
- (A-5-3) 擬人化エージェント用いた議論の雰囲気を実現する人狼対戦システムの開発 ○小林 優（東京工芸大）・大澤博隆（筑波大）・稲葉通将（広島市大）・篠田考祐（電通大）・鳥海不二夫（東大）・松原 仁（公立はこだて未来大）・片上大輔（東京工芸大）
- (A-5-4) 複数ロボットを用いた授業の質問を代弁するシステムの提案 ○土田和幸・田村俊貴・湯浅将英（湘南工科大）
- B-5 コミック工学 2（13：35～14：55）**
- (B-5-1) スケッチ入力を用いた漫画画像検索 ○松井勇佑・相澤清晴・Yushi Jing（東大）
- (B-5-2) マンガ制作プロセスにおける制作物の有効利用と分析を目的とした制作資料リポジトリ ○萩原 彰・三原鉄也・永森光晴・杉本重雄（筑波大）
- (B-5-3) コミック閲覧時のユーザの興味をトリガとした情報アクセス手法の検討 ○盛山将広・朝田貫太・内藤貴史・松下光範（関西大）
- (B-5-4) オントロジーと LOD に基づくマンガ排列の可視化による探索支援システム ○岩間勇介・三原鉄也・永森光晴・杉本重雄（筑波大）
- C-5 障害支援 1（13：35～14：55）**
- (C-5-1) 視空間記憶の低い児童に対する漢字書字訓練手法の検討 ○上羽一葵・横田光弘・伊藤史人・縄手雅彦（島根大）
- (C-5-2) あるアスペルガー障がい者にみられたケアレスミスの要因調査及び訓練手法の検討 ○山岡知正・門田直樹・伊藤史人・縄手雅彦（島根大）



(C-5-3) 医療用手話単語に対する手話表現の検討

○渡辺桂子 (工学院大)・寺内美奈 (職業大)・長嶋祐二 (工学院大)・  
加藤直人・宮崎太郎・井上誠喜・梅田修一・清水俊宏・比留間伸行 (NHK)

(C-5-4) 手話の階層的形態素記述モデルにおける非手指動作の記述法

○寺内美奈 (職業大)・渡辺桂子・長嶋祐二 (工学院大)

#### A-6 雰囲気工学 4 (15:05~16:25)

(A-6-1) ヒト型シルエットで表現された身体化エージェントが誘発する社会的促進・社会的抑制

○鈴木 聡・齋藤 涼・岡部哲也・小方博之 (成蹊大)

(A-6-2) アンビエントアピールによる割り込まない情報提示エージェント

田中貴紘 (名大)

(A-6-3) 動画サイトにおける複数キャラクタを用いたコメント入力支援システムの提案

○田村俊貴・土田和幸・湯浅将英 (湘南工科大)

(A-6-4) What Makes an Enjoyable Mood?

湯浅将英 (湘南工科大)

#### B-6 コミック工学 3 (15:05~16:25)

(B-6-1) 物語から生み出されるリアリティ

青木直史 (北大)

(B-6-2) 4コマ漫画の復元行為からみる文脈情報の考察

迎山和司 (公立はこだて未来大)

(B-6-3) コミックにおける名場面の自動編集に向けて

○山西良典 (立命館大)・井上林太郎・松下光範 (関西大)

(B-6-4) マンガ没入型エンタテインメントシステムの国際メディア発信ツールとしての進化

○小川耕作・國富彦岐・白井暁彦 (神奈川工科大)

#### C-6 行動支援・リハビリ (15:05~16:25)

(C-6-1) 社会的インタラクションを利用した筋電義手訓練促進システム

○秋道奈々緒 (筑波大)・鈴木健嗣 (筑波大/JST)

(C-6-2) 電動車いすの屋内での高精度な自動走行のための基本技術とその検証

○法月佑太・屋良朝克・柴田紘俊・五百蔵重典・田中 博 (神奈川工科大)

(C-6-3) 靴型歩行計測装置のための遊脚期の足位置推定

○枝吉 拓・ウィドド ロミ プディ・和田親宗 (九工大)

(C-6-4) 起立動作誘導システムのための屈曲相における重心位置推定法の改良

○有馬忠寛・金 芳・和田親宗 (九工大)

#### I-2 インタラクティブ発表概要 2 (16:35~17:15)

セッション A-7~8, B-3~8, C-3~8 の各発表

インタラクティブセッション 2 (17:15~18:45)

懇親会・表彰式 (19:30~21:30)

12月19日 (金)

#### A-7 HAI・HRI (9:10~10:50)

(A-7-1) 擬人化エージェントの説明力が人間に与える影響の調査

○宮田 歩・片上大輔 (東京工芸大)

(A-7-2) 複数のディスコミュニケーションロボットが作り出す新しいコミュニケーション空間

○菅原龍光・片上大輔 (東京工芸大)

(A-7-3) エージェントからの援助を受けた際の返報義務感を生じさせないインタラクションデザイン

○山本紗織・竹内勇剛 (静岡大)

(A-7-4) 沈黙時にロボットが表出する音声/動作フィラーが会話の場に与える効果

○君島啓太・武川直樹 (東京電機大)・大和淳司 (NTT)

(A-7-5) 対話ロボットとドライビングシミュレータを用いた同乗者効果の実験

○上田博唯・米澤 謙 (京産大)・朴 啓彰・中川善典 (高知工科大)・小野 浩 (本田技研)

#### B-7 脳 (9:10~10:50)

(B-7-1) 脳波を利用した文字走査入力システムにおける独立成分分析の効果

○寺島 匠・森 大毅 (宇都宮大)

(B-7-2) リズム感の能力差に関わる脳活動

○枝川広輝・川崎真弘 (筑波大)

(B-7-3) 強迫傾向による認知抑制に関する脳メカニズム

○伊與木菜生・宮内英里・川崎真弘 (筑波大)

(B-7-4) メロディを利用した単語学習記憶促進の神経生理的基盤

○新木安里子・片桐祥雅・川又敏男 (神戸大)

(B-7-5) 特発性正常圧水頭症の早期検知技術の検討

片桐祥雅 (神戸大)

#### C-7 障害支援 2 (9:10~10:50)

(C-7-1) 新奇な動作を構築するための手がかり探索支援手法に関する研究

○小池雅人・大室堯生・上杉 繁 (早大)

(C-7-2) Kinect を用いた手話認識における特徴量の検討

○古谷佳大・堀内靖雄・川本一彦 (千葉大)・下元正義・眞崎浩一 (MHIR)・  
黒岩眞吾 (千葉大)・鈴木広一 (MHIR)

(C-7-3) 読みやすさを考慮した匿名手話映像の生成法

○松岡通浩・若月大輔・河野純大 (筑波技大)

(C-7-4) オプション付き単語列を用いた手話アニメーション生成に関する一検討

○井上誠喜・加藤直人・宮崎太郎・梅田修一・東真希子・内田 翼・比留間伸行 (NHK)・長嶋祐二 (工学院大)

(C-7-5) 聴覚障害者のためのウェブベース遠隔文字通訳システム captiOnline の開発

○若月大輔・加藤伸子・塩野目剛亮・河野純大・西岡知之・内藤一郎 (筑波技大)

#### A-8 インタフェース (11:00~12:40)

(A-8-1) ワンスイッチを利用した市販ゲーム機の操作機器開発及び操作方法の検討

○岡部星樹・伊藤史人・縄手雅彦 (島根大)

(A-8-2) 手首装着型慣性センサ値の分解と行動認識への応用

○谷 綾子・川本一彦・岡本一志 (千葉大)

(A-8-3) 潜在的読者に対する意識を高める Twitter 書き込みのユーザインタフェースの開発と評価

○大沼美由紀・木村 敦・武川直樹 (東京電機大)

(A-8-4) 人間の指差し動作モデルを用いたポインティングシステムの設計と性能予測

○保澤圭亮・吉本廣雅・近藤一晃・小泉敬寛・中村裕一・古谷栄光 (京大)

(A-8-5) プレゼンテーションのための直観的ポインティング手法の提案と評価

○渡辺恵太・中道 上 (福山大)・山田俊哉 (NTT アイティ)・尾関孝史 (福山大)

#### B-8 目と認知 (11:00~12:20)

(B-8-1) 視覚野—運動野間の脳波位相同期と反応時間の因果関係

○邊見佳輝・川崎真弘 (筑波大)

(B-8-2) 2つの直角プリズムの回転角制御による視野回転ツールの開発

○鳥越星美・堀内智貴・上杉 繁 (早大)

(B-8-3) ポスター自動発表システムの実現に向けた視線分布に基づく話題推定

○吉本廣雅・中村裕一 (京大)

(B-8-4) 文節単位の階段状ベースラインを有する日本語リーダーの可読性

○小林潤平・関口 隆・新堀英二 (大日本印刷)・川嶋稔夫 (公立はこだて未来大)

#### C-8 生活コンピューティング (11:00~12:20)

(C-8-1) IC カードの利用による児童の食物アレルギー症状共有システムの開発

○西谷静姫・鷹野孝典 (神奈川工科大)

(C-8-2) 机上行動のライフログのための行動認識

○貴志一樹・山崎俊彦・相澤清晴 (東大)

(C-8-3) 集合的個人視点映像の自動編集に関する基礎検討

○近藤一晃・小幡佳奈子・中村裕一 (京大)

(C-8-4) オフィスでの長期無拘束会話分析に向けた話者自動推定システム

○村田裕章・中山雅野・横山ひとみ・堀田政二・藤田欣也 (東京農工大)

クロージング (12:40~13:00)

【問合先】 [contact@hcg-symposium.org](mailto:contact@hcg-symposium.org)

主 催 電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ

#### ●2015 年暗号と情報セキュリティシンポジウム (SCIS2015)

(The 32nd Symposium on Cryptography and Information Security)

論文募集

期 日 平成 27 年 1 月 20 日 (火)~23 日 (金)

会 場 リーガロイヤルホテル小倉 (北九州市小倉北区浅野 2-14-2)

概 要 暗号と情報セキュリティシンポジウムは、暗号と情報セキュリティ技術に関する最新の研究成果を発表する場及び情報交換の場として、1984 年以来毎年開催されているセキュリティ分野における日本最大規模のシンポジウムです。第 32 回となる SCIS2015 は、福岡県北九州市で開催致します。

募集テーマ 暗号及び情報セキュリティに関する分野、特に新しく発展しつつある研究分野。

募集テーマを以下に挙げますが、これらに限らずセキュリティ技術に関わる論文を広く募集します (査読による絞込みはありません)。

募集テーマ例 暗号理論、情報理論的安全性、数論応用、公開鍵暗号、ID ベース暗号、だ円・超だ円曲線暗号、暗号化状態処理、ペアリング、共通鍵暗号、ハッシュ関数、乱数、署名、認証、鍵管理、量子セキュリティ、サイドチャネル攻撃、暗号プロトコル、フォーマルメソッド、ネットワークセキュリティ、ネッ

トワーク攻撃検知・対策, マルウェア対策, Web セキュリティ, ユビキタスセキュリティ, クラウドセキュリティ, 組み込みセキュリティ, モバイルセキュリティ, セキュア OS, 電子透かし, コンテンツ保護, ソフトウェア保護, プライバシー保護, バイオメトリクス, バイオテンプレート保護, 実装, 教育・心理学, セキュリティ評価・モデル

#### 論文賞等

イノベーション論文賞 情報セキュリティ (ISEC) 研究専門委員会では 2012 年から全講演論文を対象としたイノベーション論文賞を設定しています。イノベーション論文賞は「新しい研究・技術開発」の奨励を目的としています。その奨励対象は理論的新規な論文に、情報通信技術での問題提起や新しい研究分野の提案も含まれます。多くの技術者・研究者による積極的な御発表をお願い致します。

SCIS 論文賞 情報セキュリティ (ISEC) 研究専門委員会では暗号と情報セキュリティシンポジウム (SCIS) の発展と活性化, 並びに, 暗号と情報セキュリティ分野で活躍する若手の奨励を目的として, 1993 年から SCIS 論文賞を設定しています。この分野に関連した多くの技術者・研究者による積極的な御発表をお願い致します。

#### 主なスケジュール

平成 26 年 10 月 31 日 発表申込み・参加申込み受付開始

11 月 28 日 発表申込み締切

12 月 5 日 発表題目・概要締切

12 月 15 日 原稿提出締切

平成 27 年 1 月 6 日 参加申込み締切

1 月 20 日~23 日 SCIS2015 開催

申 込 以下の申込みを 10 月 31 日より本シンポジウムの Web ページにおいて受け付ける予定です。詳細は <http://www.iwsec.org/scis/2015/> を御参照下さい。投稿原稿は「概要アブストラクト：日本語 500 文字以内, 英語 1,300 文字以内」及び「論文 8 ページ以内 (A4 版, 1.5 MB 制限)」を御準備下さい。

参加費用 参加費 (事前登録) 一般 33,000 円, 学生 19,000 円

懇親会参加費 (事前登録) 一般 8,000 円, 学生 6,000 円

諸注意 参加・発表申込み及び原稿提出の各締切を厳守して下さい。原稿に関する著作権は電子情報通信学会に属します。

問合せ先 不明な点は下記にお問合せ下さい。scis2015(at)ml.labs.fujitsu.com

主 催 電子情報通信学会情報セキュリティ研究専門委員会 (ISEC 研)

協 催 電子情報通信学会バイオメトリクス研究専門委員会 (BioX 研)

電子情報通信学会情報通信システムセキュリティ研究専門委員会 (ICSS 研)

協 賛 西日本産業貿易コンベンション協会